

ワーキンググループ (WG) の設置について

1 WG 立上げの理由

平成 18 年 3 月に開催された国際会計基準審議会 (IASB) との会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第三回会合において、(1)金融商品の時価開示、(2)資産除去債務、(3)工事契約が検討テーマに追加され、「短期プロジェクト」として位置付けられた。

今後、進めるにあたっては、実務上の論点もさることながら、理論的な論点について整理・検討を行うことが必要と考えられるため、学識経験者を含む WG をそれぞれ立ち上げることとしたい。なお、ある程度、検討が進んだ段階で専門委員会を立ち上げる予定である。(金融商品の時価開示については、「金融商品専門委員会」で取り上げる予定である。)

2 メンバー (案)

それぞれ、ASBJ 事務局の他、以下の外部メンバーにて行う。

(1)金融商品の時価開示	(2)資産除去債務	(3)工事契約
吉田康英 (中京大学)	黒川行治 (慶応大学)	辻山栄子 [担当委員]
森口孝志 (日本銀行)	鈴木一水 (神戸大学)	近田典行 (埼玉大学)
松村洋季 (新日本監査法人)	河野明史 (新日本監査法人)	金子寛人 (あずさ監査法人)

(参考)

(1)金融商品の時価開示

注記情報としての金融商品の時価開示について、現行の有価証券やデリバティブに加え、実務的に算定が困難な場合を除き、すべての金融商品に開示対象を拡大 (貸付金や長期売掛債権、借入金等) するかどうか。

(背景)

- ・ 証券化の拡大に伴い、原価評価されている金融資産についても時価開示を求めるニーズがあること
- ・ 金利水準が変動する場合には情報価値が増加すると想定されること

(2)資産除去債務

資産の除去債務について、有形固定資産の取得価額に計上 (その後の減価償却額にも影響を及ぼす) するとともに、負債として計上するかどうか。

(背景)

- ・ テーマ協議会からの提言で固定資産会計、引当金の会計処理が検討課題とされていること
- ・ 日本国内でも環境問題への関心が高まり、債務性の認識が高まっていること
- ・ 国際会計基準や米国基準に比べて負債計上が不十分であるという認識 (「隠れ負債」) をもたれるリスクの増加が懸念されていること

(3)工事契約

工事契約について、工事完成基準と工事進行基準の選択適用を見直すかどうか。

(背景)

- ・ テーマ協議会からの提言で工事進行基準への統一も検討課題とされていること
- ・ ソフトウェア開発など、請負契約に基づく取引範囲が拡大していること
- ・ 四半期開示の導入で業績見通しの進捗状況に対する関心が増加していること

以 上

(財)財務会計基準機構の Web サイトに掲載した情報は、著作権法及び国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律並びに条約によって保護されています。許可なく複製・転載等を行うことはこれらの法律により禁じられています。